

## 論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	総合医療・健康科学領域 社会医療総合医学教育研究分野 黒岩純
指導教授氏名	中路重之
論文審査担当者	主 査 大門 眞 副 査 水上 浩哉、 木村 博人
(論文題目) 一般住民における血清レプチン濃度の実態及び糖代謝関連項目に及ぼす影響 (Effect of obesity on leptin and glucose metabolism-related items in the general population)	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>脂肪組織からは種々の生理活性物質（アディポサイトカイン）が産生・分泌され、血圧、糖代謝、脂質代謝等に影響を及ぼす。アディポサイトカインのひとつであるレプチンは、脂肪組織から分泌され、視床下部に作用し摂食抑制とエネルギー消費亢進をもたらす。体脂肪が増えると分泌が亢進し、体重の増加を抑制するという抗肥満作用を持つが、インスリン抵抗性改善等の代謝作用も持つ。血中のレプチン濃度は肥満、加齢、性ホルモン、等種々の要因の影響を受けているが、申請者は、血中レプチン値に影響する要因を、糖代謝との関連性の見地から、検討する事を目的に本研究を行った。殊に、本研究では、非糖尿病患者を対象としており、予防的観点からも大きな意義を有する。</p> <p>対象者は、2011 年度岩木健康増進プロジェクト・プロジェクト健診を受診した一般成人 617 名（男性 242 名、女性 375 名）。男性、女性（閉経前、閉経後）に分け、また肥満群（BMI25 以上）と非肥満群（BMI 25 未満）に分け、レプチンと糖代謝の関係につき解析した。男性では血糖、HbA1c、C-peptide のすべての項目において、非肥満群・肥満群の両群でレプチンと正の相関がみられた。閉経前女性では、肥満・非肥満群ともにレプチンと血糖、HbA1c、C ペプチドの間に有意な相関関係はみられなかった。一方、閉経後女性では、非肥満群において、レプチンと血糖、HbA1c、C ペプチドの間に正の相関がみとめられたが、肥満群ではレプチンと C-peptide の間に正の相関がみられたのみであった。肥満は、インスリン抵抗性及びレプチン抵抗性を引き起こすことより、レプチンと C ペプチドの間には間接的な関係が考えられるが、非肥満では性ホルモンも影響している。性別、閉経の有無を考慮してレプチン値を判断する必要があるとの重要な知見が得られた。</p> <p>社会医学の見地からも重要な点で、学位に値する。</p>	
公表雑誌等名	体力・栄養・免疫学雑誌(JPFNI) 2015 ; 25 : 印刷中